

防災スペシャリスト養成研修（有明の丘） 令和4年度 第1期（オンライン研修）

「警報避難」コース

【各講義の内容と学習目標】

受講期間 オンデマンド：R4年9月12日（月）～9月25日（日）  
リアルタイム：R4年9月29日（木）13:00～16:30

手法	No.	単元名	単元の概要	No.	時間	講師名	学 習 目 標	
オンデマンド	講義	1	警報避難総論	警報避難対策の基本的な考え方と事前対策を学ぶ。	1	58分	井ノ口 宗成 (富山大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>警報等の伝達及び避難誘導の目的、実施主体と役割について説明できる。</li> <li>警報等の伝達及び避難情報の判断・伝達の流れについて説明できる。</li> </ul>
		2	警報等の種類と内容	警報等の種類と内容、伝達を学ぶ。	2	95分	森 浩俊 (気象庁)	<ul style="list-style-type: none"> <li>注意報と警報、特別警報の意義付けと意味について説明できる。</li> <li>警報等の入手方法と伝達にかかる主体について説明できる。</li> </ul>
		3	避難情報の発令判断・伝達等	避難情報の判断と伝達方法について学ぶ。	3	42分	岩井 真央 (内閣府)	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民等の避難行動の考え方について説明できる。</li> <li>災害ごとの避難準備情報や避難指示等の判断に必要な考え方について説明できる。</li> <li>避難情報を住民に伝達し、周知するための伝達方法について説明できる。</li> </ul>
		4	土砂災害における警報と避難	土砂災害における警報と避難の実務について学ぶ。	4	65分	大野 宏之 (全国治水砂防協会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>土砂災害における警報と避難の実務について説明できる。</li> <li>土砂災害における避難の注意点を説明できる</li> <li>土砂災害の前兆現象について説明できる</li> </ul>
	ワーク	5	土砂災害の事例に学ぶ	土砂災害の事例から土砂災害における警報と避難について、その実態を演習形式で学ぶ。	5-1	20分+a	井ノ口 宗成 (富山大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>土砂災害における警報と避難の難しさを説明できる。</li> <li>土砂災害における警報と避難の決心ポイントを説明できる。</li> <li>土砂災害における警報と避難におけるスネークラインの活用を説明できる。</li> </ul>
					5-2	18分	越野 修三 (岩手大学)	
	講義	6	風水害における警報と避難	風水害における警報と避難の実務について学ぶ。マイトimeline、避難計画などについて理解し、高齢者、障がい者、外国人への配慮など、避難誘導の際に留意すべき点について学ぶ。	6-1	10分	井ノ口 宗成 (富山大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>風水害における警報と避難の実務について説明できる。</li> <li>水害時における災害対応の難しさを説明できる。</li> </ul>
					6-2	13分	梶原 秀一・平川 淳史 (大分県日田市)	
					6-3	19分	青木 克也 (大分県日田市)	
					6-4	38分	高木 康伸 (気象庁)	
	ワーク	7	風水害からの警報避難における決心	風水害における警報と避難の決心ポイントを演習形式で学ぶ。	7-1	9分+a	井ノ口 宗成 (富山大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>風水害の予兆現象の活用について説明できる。</li> <li>風水害における警報と避難の困難性について説明できる。</li> <li>風水害における警報と避難の決心ポイントを説明できる。</li> </ul>
					7-2	5分	高木 康伸 (気象庁)	
7-3					19分	越野 修三 (岩手大学)		
講義	8	南海トラフ地震臨時情報	地震災害の警報と避難について学ぶ。	8-1	8分	小門 研亮 (内閣府)	<ul style="list-style-type: none"> <li>南海トラフ地震臨時情報が導入された背景や意義が説明できる。</li> <li>南海トラフ地震臨時情報が発表された際にとるべき防災行動が説明できる。</li> <li>日本海溝・千島海溝沿いにおける後発地震への注意を促す情報についての概要を説明できる。</li> </ul>	
				8-2	18分	丹下 豪 (気象庁)		
				8-3	24分	小門 研亮 (内閣府)		
				8-4	10分	小門 研亮 (内閣府)		
講義	9	個別避難行動の支援と計画	円滑かつ迅速な避難を実現するための個別避難計画の役割と避難行動支援の考え方を学ぶ	9-1	32分	藤田 亮 (内閣府)	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針の改定の経緯を説明できる。</li> <li>取組指針の改定の全体像を説明できる。</li> <li>個別避難計画がなぜ必要なのかを説明できる。</li> <li>個別避難計画の対象者を説明できる。</li> <li>個別避難計画を作る具体的なワークフローを説明できる。</li> </ul>	
				9-2	44分	松川 杏寧 (防災科学技術研究所)		
ワーク	10	避難場所・避難所の認定と適否判断	住民等の避難行動の目的となる避難場所・避難所の種類とその設置要件及び災害ごとに避難場所・避難所の適否判断をするうえでの行動を演習形式で学ぶ。	10	20分+a	井ノ口 宗成 (富山大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難場所・避難所の種類と内容について説明できる。</li> <li>風水害で被災した避難所の事例を説明できる。</li> </ul>	
								リアルタイム
12	全体討論/質疑応答	防災力向上のため、警報避難について学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	12	井ノ口 宗成 (富山大学) 越野 修三 (岩手大学) 高木 康伸 (気象庁) 森 浩俊 (気象庁)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修受講の目的を再認識する。</li> <li>研修を通じて、学び、得たものを整理する。</li> <li>研修を活かして次につなげることを認識する。</li> </ul>			